松坂屋 大正100年・躍進の軌跡

平成24年3月1日（木）→5月29日（火）

大正初期から昭和10年代までのおよそ30年間に、わが国の百貨店の原型が出来上がったといわれる。そして、それを牽引、先導したのが松坂屋であった。
大正14（1925）年に「いとう呉服店」から「松坂屋」へ変更し、商号から呉服店を外した最初の百貨店となった松坂屋は、大衆化への転換点になった土足入場でも先鞭をつけ、交通機関との直結でも先行した。
関東大震災後は、上野店を再建し、銀座と静岡に進出し、さらには名古屋店、大阪店の大増築を行って、3大都市圏および東海道メガロポリスにおける基盤をより確かなものにした。
ソフト面でも、制服の洋装化、エレベーターガールの起用、名店街の開設、文化教室の開講などを他社に先駆けて行った。さらにはイベントの企画・開催や、流行の創出・発信などを積極的に行ない、祝祭空間としての百貨店を形づくっていった。
ここでは、松坂屋を代表的な百貨店へと押し上げた、その躍進の軌跡をたどる。

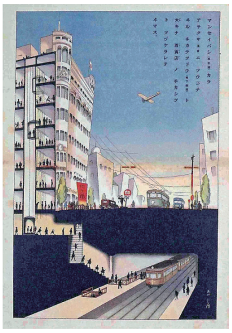
「松坂屋初づくし」

土足入場の実施（銀座店）

関東大震災の翌大正13（1924）年12月、銀座初の百貨店として開設した松坂屋銀座店は、開店にあたり土足入場（下足の廃止）に踏み切った。それまでは入口で履物をあずけるか、カバーをつけるかして入店していたものを、靴履きのまま入れるようにしたのである。わが国の百貨店史上初となる画期的な出来事で、以後各社が追随した。こうして誰もが立ち寄れる店舗として、百貨店の大衆化が本格化していった。

商号を「松坂屋」に統一（全店）

松坂屋は、名古屋店新店舗の開店日にあたる大正14（1925）年5月1日、全店の商号を「いとう呉服店」から「松坂屋」へ変更した。この年、呉服部門の売上高のシェアが50%を切り、呉服店の名称がそぐわないものになっていた（ちなみに、同業が商号から呉服店を外すのは昭和になってから）。松坂屋は他社に先駆け、名実ともに百貨店へと脱皮をとげたのである。

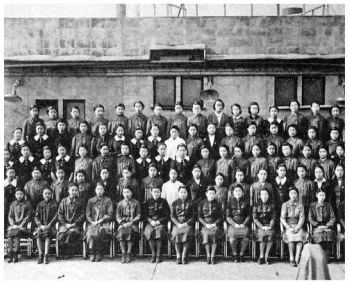


交通機関と直結（上野店・銀座店）

百貨店の大衆化を目指した松坂屋は、大量輸送機関である鉄道との連絡に着目し、大正14（1925）年3月、銀座店と東京・新橋・有楽町駅との間に、顧客送迎自動車を走らせた。このとき、バスの車掌に初めて女性を起用し、話題を呼んだ。昭和5（1930）年1月には、地下鉄銀座線の「上野広小路」駅と上野店の地下の食料品売場がつながり、地下鉄と直結した最初の百貨店となった。

エレベーターガールの登場（上野店・銀座店）

第一次世界大戦（1914―1918）後の都市化の進展は、女性の社会進出を促した。職業婦人とよばれたこれら女性の活用に最も熱心だったのが松坂屋であった。昭和4（1929）年4月1日、新築開店の上野店に、わが国初のエレベーターガールが登場した（銀座店も同時期）。当時の新聞が「『昇降機ガール』が日本にも出来た。上野松坂屋の新館で初試み。職業婦人の新進出」と書きたてた。

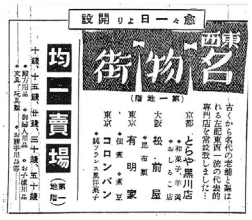


制服の洋装化（銀座店）

斬新な百貨店づくりを目指した銀座店は、制服の完全洋装化でも先鞭をつけた。銀座店は、開業と同時に食堂の係員の制服を洋装にしていたが、昭和8（1933）年7月には、呉服売場以外の制服もすべて洋服に切り替えた。銀座においてさえ、女性の洋装がまだ2割に満たない時代の英断であった。

染織参考室の設置（京都仕入店）

昭和6（1931）年10月、「時代衣装を収集し、染織意匠の向上と優秀呉服の制作に資する」ことを目的に、京都仕入店内に染織参考室を設置した。小袖、能装束、振袖、帷子、陣羽織などの衣装、古代裂、コプト裂（エジプト）、インカ裂（南米）、更紗（インド）などの裂地、その他雛形本、能面、屏風、甲冑など、多種多様な美術・工芸品を、昭和14（1939）年にかけて集中的に収集し、3つの土蔵に収蔵した。



名店街の開設（名古屋店）

日本と欧米の百貨店の違いは、「名店街」のあるなしともいわれる。これを企画したのが、松坂屋名古屋店であった。昭和12（1937）年に増築した際に、地階に「京都　とらや黒川店」（和菓子）「大阪　松前屋」（昆布）「東京有明家」（佃煮）「東京 コロンバン」（洋菓子）で構成する「東西名物街」を特設したのである。この名店街を、戦後になって各百貨店が取り入れ、やがてデパ地下と呼ばれるようになる。

文化教室の開設（大阪店）

大阪店が昭和12（1937）年に7階に設けた「松坂倶楽部」は、趣味を通じて顧客の交流と組織化をはかったもので、わが国の文化教室の先駆けをなすものであった。邦楽、洋楽、舞踊、華道、茶道、料理など16の講座の講習が、一流の講師（ほとんど家元。将棋はのちの大山名人、升田九段が指導）によって行われ、機関誌『趣味道場』も発行した。

松坂屋 大正100年・躍進の軌跡

西暦	和暦	月	日	松坂屋（いとう呉服店）の動き
1912	大正元			
1913	大正2	3	22	名古屋本店を名古屋営業部、東京支店を東京営業部に名称変更
		10	1	上野店、4階建て東館増築、食堂新設
1914	大正3	4	1	上野店、北部陳列館開館
1915	大正4	8	25	『店報』第1号発行
		11	20	京都支店、縮緬販売業を廃止、京都仕入店と改称
1916	大正5	12	1	上野店、4階建て新本館第1期新築開店
1917	大正6	10	1	上野店、4階建て新本館第2期新築開店
1918	大正7	5		制服「規定縞」制定（百貨店初）
		12	31	名古屋店、増築工事落成、エレベーター新設
1919	大正8			上野店、食料品売場を開設（東京百貨店初）
1920	大正9	3	5	「信条」布達、会社創立10年記念式
		5		上野店、「台麓図案会」を創設
1921	大正10			
1922	大正11	11	20	上野店、別館新築落成
1923	大正12	3	1	大阪店、新築開店
		9	2	上野店全焼
		9	15	上野店、慰問袋10万個を罹災者へ配布
		10	1	上野店、東京市設衣類雑貨臨時市場を開設
		12	10	上野広小路本館開館
1924	大正13	4	1	いとう呉服店少年音楽隊、センバツの演奏を行う
		12	1	銀座店、新築開店
		12	1	銀座店、土足入場を実施（百貨店初）
1925	大正14	3	28	銀座店、顧客送迎自動車運行開始
		5	1	商号を「松坂屋」に統一（呉服店を外した百貨店初）
		5	1	名古屋店、栄町から南大津町に移転
		5	1	銀座店、屋上に動物園開園（百貨店初）
		12	1	名古屋店、栄町に日用・食料品店「栄屋」開店
1926	昭和元			
1927	昭和2			
1928	昭和3	5	1	名古屋店、PR誌『マツサカヤ』創刊
		8	28	両毛仕入出張所新設
		9	15	名古屋店、木造2階建て北館増築
		12	1	大阪店、南館増築
1929	昭和4	4	1	上野店、7階建て本館完成
		4	1	上野店・銀座店、エレベーターガール登場（百貨店初）
		12	15	上野店、顧客送迎自動車運行開始
1930	昭和5	1	1	上野店、地下鉄と売場が直結（百貨店初）
		2	5	55歳定年制実施
		3	3	銀座店、「お好み食堂」開設（百貨店初）
		6	21	上野店、南館増築、食料品店「サカエヤ」開設
1931	昭和6			上野店に「お子様ランチ」登場
		10	1	京都仕入店内に松坂屋染織参考室を設置
1932	昭和7	1		名古屋店、『松坂屋美術』創刊（百貨店初）
		11	20	静岡店、新築開店
1933	昭和8	6	10	財団法人「衆善会」設立
		7	1	銀座店、制服を洋装に統一（百貨店初）
		9	7	上野店、「マツザカヤマンガ」発行
1934	昭和9			
1935	昭和10	2	16	店名文字制定
		6	1	上野店・銀座店、PR誌『新装』創刊
		9	23	帝国ホテルで第1回「染織名作展」開催
		12	29	静岡店、6・7階増築
1936	昭和11	12	1	名古屋店、「東西名物街」（名店街）開設（百貨店初）
1937	昭和12	3	5	大阪店、全館増築完成
				大阪店、2人並列型エスカレーター設置（百貨店初）
		3	15	名古屋店、全館増築完成

上野店（大正時代）

銀座店

上野店（戦前）

静岡店

名古屋店

大阪店

社会の動き			
1912	7	30	明治から大正へ改元
1914	7	28	第一次世界大戦始まる
1917	11	7	ロシア10月革命
1918	9	27	原内閣成立
1920	1	10	国際連盟発足
	3	15	戦後恐慌始まる
1922	12	30	ソビエト連邦成立
1923	9	1	関東大震災
1924	7	1	メートル法施行
1925	3	19	治安維持法成立
	3	29	普通選挙法成立
	11	1	東京山手線環状運転開始
1926	12	25	大正から昭和へ改元
1927	3	15	金融恐慌始まる
1928	2	20	普通選挙実施
1929			流行歌「東京行進曲」ヒット
1930			「アチャラカ」が流行
	2	10	名古屋市営バス運転開始
1931			流行歌「丘を越えて」ヒット
	9	18	満州事変勃発
1932	5	15	5.15事件
	12	16	白木屋火災
1933			映画「金色夜叉」ヒット
	5	3	大阪梅田ー心斎橋間に地下鉄開通
1934	9	21	室戸台風
1935			流行歌「二人は若い」ヒット
	12	9	ロンドンで海軍軍縮会議
1936	2	26	2.26事件
1937			川端康成『雪国』出版
	7	7	日中戦争勃発